



(深谷・桐生及足利)

方丈・庫裏・書院などの建物跡、庭園、井戸、堀、土塁などが検出された。

栃木・史跡足利学校跡

史跡足利学校

1 所在地 栃木県足利市昌平町

2 調査期間 一九八一年(昭56)八月~一九八八年二月

足利市教育委員會 発掘機関 3

4
調査担当者 橋本 勇・市橋一郎・中山俊彦・山崎博章

力漫仲啓

遺蹟の種類

貴亦及『大商出二貴傳』既更

足利学文亦は北側こ山地、南側

清水川（現度良頬川）や名

清水川（現源良瀬川）や名

砂によつて形成された標高

約三四mの自然堤防上に所

在する。発掘調査の結果、

方丈・庫裏・書院などの建

物跡、庭園、井戸、堀、土

墨などが検出された。

木簡（卒塔婆）は、敷地

一切佛說慈雲想觀信女士回忌之辰
給此以功德同此覺路

の四周をめぐる堀の、東側の堀から一点出土した。東堀跡は江戸時代の図面どおり幅四間であることが確認でき、さらにこの下から中世頃の幅一—m以上の堀状遺構が検出されている。木簡が出土したのは江戸時代の東堀からである。

ほかに木製品としては木杭・破片を除いて二七点あり、うち東堀からは、漆器椀五、下駄四、木桶底板一、柄杓底板一、不明木製品一点が江戸時代の層から出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 塔此以功德同□覺路

〔登カ〕

木簡は笠塔婆で、上半は欠損し、下方は地面に刺さりやすいよう楔状に加工されている。出土した東堀跡のすぐ東側は臨濟宗善徳寺の墓地になつていて、

(540)×31×6 061

(市橋一郎)